

旭川敬老園だより



第71号
 岡山市北区祇園866
 特別養護老人ホーム
旭川敬老園
 発行責任者 森 繁樹
 電話 (086) 275-4349



毎年恒例の旭川荘夏祭り。ボランティアさんと一緒に楽しみました。

来年度には、介護保険法の大規模な改正が見込まれており、高齢社会の更なる進展に備えた「地域包括ケアシステム」の構築を目指すこととされています。とはいえ、政治状況等の影響もあり、具体的な制度変更の内容はあまり大がかりではない様子です。

さて、高齢者介護サービスの現場に身を置いていて、最も大きな課題と感じるのは「介護人材の不足」です。今後ますます進展する超高齢社会の現実、さらには要介護高齢者の増加を考えれば、このことにもっと大きな社会的な関心が向けられるべきだと思います。

特に深刻なのが、若い介護職員の育成問題です。専門職であるべき介護福祉士の人数そのものだけを見れば、順調に伸びているように感じます。しかし、専門学校や短大等といった若いうちから介護福祉士を目指す人材についての状況は深刻です。介護保険制度スタート以降の数年間は全国で年間二万人前後いた学生数が、現在では一万人程度にまで急速に落ち込んでいます。若い人たちがとって高齢者介護の仕事は、それほど魅力のないものとなってしまったのでしょうか。

近年、介護保険制度の定着に伴い、介護サービス関連の事業者が急増してきました。でも、そうした事業者の中には「介護サービスの質や働く者の「やりがい」などには関心がなく、ただお年寄りを預かっておけばいい、といったようなところもあります。しかし、そうした介護サービスに詳しいわけでもなく、かつ働く者の労働条件も十分に整備しない介護事業者が増えた結果が現在の介護人材の不足や若い就労希望者の減少といった事態を招いたのでないでしょうか。

介護保険制度の改正に当たっては、利用者の立場を考えることももちろんですが、制度の持続性を考えるのであれば、将来を担う介護人材に魅力ある職場を構築していくことも大きな課題です。今こそ、何らかの制度工夫が求められています。

高齢者介護サービスの行方

園長 森 繁樹

ショートステイ通信

ショートステイはデイサービスのよりに交流や本人の活動性を高めることが一番の目的ではありません。第二の家として本人のペースにて過ごしていただくこと、元気にまた自宅に戻っていただくことが一番の目的です。そのためには安心と安全を最重点に介護をさせていただきます。そのうえでクラブ活動への参加やリハビリを行っています。

ショートステイをご利用の方はすべて地域で生活されている方ばかりです。ご本人の状況だけでなく家族環境や住環境もみなそれぞれですので、このように対応するのがベストという教科書的な正解はありません。なるべくご本人の希望する、または慣れている介護の方法、環境設定などについて日々スタッフ間で検討しながら、一緒に過ごさせていきたいです。

(介護主任 柴床)



ご入居の方と一緒に
そうめん流しを楽しみました。

「チェアインバス」の導入

従来的一般浴、座位式リフト浴、臥式浴に加え、七月から「チェアインバス」を導入しました。リクライニングチェアによる前向き入浴で、プライバシーが配慮され、寝たきりの方も不安が少なく座って入浴できます。また、介護者の腰痛予防に、天井走行リフトも設置しました。今後も入居者にも職員にも優しい質の高い入浴ケアをめざします。

ありがとうございます



七月二十四日、旭川荘家族等連絡協議会の夏まつり会場の除草作業に旭川敬老園家族会も積極的にご参加ください、十四名の方のご参加を頂きました。暑い中、手際よく会場整備をしてくださいました。作業後は園のホールに集まり、ご家族同士の親睦や気兼ねのない意見交換の場となりました。



導入前の研修

ご入居者の状況 (九月一日現在)

- ◆在籍数 一一〇名
(男性三十二名 女性七十八名)
- ◆平均年齢 八十五歳三カ月
(男性八十一歳、一カ月、女性八十七歳)
- ◆平均在籍日数 四年九カ月

編集後記

毎回、旭川敬老園だよりのテーマを編集委員が考えます。テーマがなければ、何の視点も方向性もないただの記事の羅列になるからです。ふと思いましたが、私に人生のテーマがあつたかなと。人生が日々の羅列にならないようにしたいものです。編集作業が人生哲学を考える契機になることもめいめいです。